

狛江市消防団とは…

狛江市消防団は、「消防団本部」と6つの「分団」で組織され、各分団が市内でそれぞれの区域を受け持っています。配置されている車両は指揮車1台、人員輸送車1台、ポンプ車6台になります。

団員は、火災をはじめとした災害の備えとして、資機材点検や各種訓練に取り組み、消防力の維持・向上を図っています。また、地域住民に対する応急手当の普及活動や各種行事等の警戒活動を通じ、地域との繋がりを深めています。



さらに、大規模な風水害への備えに対しても狛江市消防団は大きな役割を担っています。今でも記憶に新しい令和元年東日本台風の浸水被害を受け、浸水被害の防止・軽減を目的に令和3年12月から配備した排水ポンプ車の運用を消防団が実施しています。排水ポンプ車を迅速かつ的確に運用するため、水害対応訓練を定期的の実施し、万全の体制を整えています。

狛江市消防団は、狛江市に住む人々が安心して暮らせる安全なまちとなるよう、「自らのまちは自らで守る」の精神に基づき、地域の防災リーダーとして安心・安全のため、日夜活動しています。

火災の備え

火災想定訓練

消防団では、定期的で大規模災害への対応を主眼とした想定訓練を実施しています。特に、いつ来てもおかしくないと言われている首都直下地震への対応として、街区における火災想定訓練を行っています。



実際の火災を想定して、迅速かつ的確にホースを延長し、放水を行います

各分団による定期的な点検・訓練

各分団ごとに、消防ポンプ車をはじめとした資機材が有事の際に円滑に機能するよう点検を定期的に行っています。また、放水訓練等を繰り返し実施し、団員の技術向上を図っています。



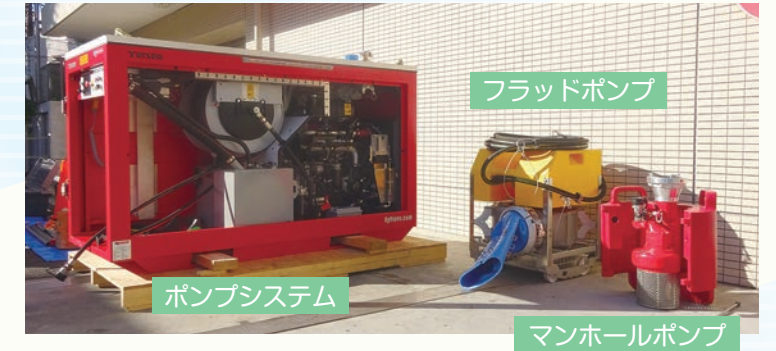
先輩団員が後輩団員に資機材の使い方を丁寧に説明しています

水害の備え

排水ポンプ車の特徴

排水ポンプ車は、台風・豪雨で生じた浸水箇所の周辺に移動し、搭載された水中ポンプを設置し、排水を行うことで、浸水被害の防止・軽減を図ります。

主な仕様として、水中ポンプを稼働させるための専用ディーゼルエンジンを備えた移動式大量送排水ポンプユニット、道路冠水などの浸水箇所使用するフラッドポンプ、マンホールなどに投入して使用するマンホールポンプがあり、この2種類の水の中ポンプを用途に応じて選択します。



排水ポンプ車運用訓練

排水ポンプ車の操作技術及び現地における対応力の向上を図るため、令和元年東日本台風による浸水被害があった箇所において排水ポンプ車運用訓練を実施しています。



排水ポンプ車による排水活動の流れ

- 1 浸水被害の発生に備え、水防倉庫において排水ポンプユニットをトラックに搭載
- 2 排水ポンプを設置し、排水ホース及び油圧ホース等の資機材を接続
- 3 排水ポンプに接続した排水ホースを多摩川土手天端まで延長
- 4 排水ポンプユニットを起動し排水場にて排水を開始